

【保土ヶ谷区】令和 5 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 5 年 2 月 14 日 午後 3 時 30 分 ～ 午後 5 時 00 分
場 所	保土ヶ谷区役所本館地下 地下会議室
出席者	<p>【座 長】 磯部 圭太 議員</p> <p>【議 員】 斉藤 伸一 議員</p> <p>青木 亮祐 議員</p> <p>森 ひろたか 議員</p> <p>北谷 まり 議員</p> <p>【保土ヶ谷区】 出口 洋一 区長</p> <p>近藤 健彦 副区長</p> <p>岩井 裕子 福祉保健センター長</p> <p>守屋 大介 福祉保健センター担当部長</p> <p>井上 義晃 保土ヶ谷土木事務所長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和 5 年度保土ヶ谷区編成予算案について</p> <p>2 その他</p>
発言の 要 旨	<p>議題 1 令和 5 年度保土ヶ谷区編成予算案について</p> <p>(1) 令和 5 年度予算編成に向けた「区提案反映制度」項目・対応状況</p> <p>北谷議員：</p> <p>13 番「歯科定期健診受診率向上に向けた具体策の調査検討及び実施」、14 番「いわゆる「ごみ屋敷」対策の推進に向けた支援体制の拡充」、16 番「多職種連携によるアウトリーチ支援」に関して、健康福祉局への提案内容と結果について説明してほしい。</p> <p>檜崎福祉保健課長：</p> <p>13 番については、健康横浜 21 では、「過去 1 年間に歯科健診を受診した者の割合」の目標値を 65%と掲げているのに対して、令和 2 年度健康に関する意識調査の結果では、「この 1 年に歯科健診を受診した者の割合」が 5 割を切っている。特に保土ヶ谷区だけが受診率が低いということではないが、区としても、セルフケアだけでなく、歯科健診の受診率を高めていく</p>

ことも必要だと考えており、歯科健診受診率向上に向けた具体策の調査検討委託について健康福祉局に要望した。

区としては、特に年代層を限定せずに、歯科健診の受診率向上に向けた具体策の調査検討を提案したが、健康福祉局としては、特に大学生等の青年期を対象とした対策を行うモデル事業を実施すると回答をもらっている。具体的な手法についてはこれから検討すると聞いている。

檜崎福祉保健課長：

14 番については、いわゆる「ごみ屋敷」への対応にあたっては、ご本人に寄り添った対応が必要だと考えている。そのため、区の社会福祉職等の専門職を中心に支援チームを作り、相談対応にあたっているところだが、より専門的な対応ができるよう、精神科医や臨床心理士等を一定期間継続的に派遣できる仕組みの整備を提案した。具体的には、現在も専門的なカウンセリングやコンサルテーションにつなげる手段はあるが、例えば1か月などある一定の期間、精神科医や臨床心理士等に入ってフォローしてもらい仕組みができないかという提案を行った。これについては○（対応する）ということで、引き続き健康福祉局の予算の範囲の中で、派遣ができる仕組みについて一緒に検討していくという回答をもらっている。

北谷議員：

具体的なごみ屋敷の対応案件があり、その対応の中で、精神科医等の専門職に来ていただいた方が良いと判断した時に、依頼して来てもらうということか。

檜崎福祉保健課長：

精神科の医師等にも支援チームの一員として一定期間入っていただき、一緒に進めていく仕組みとしたいと考えている。

北谷議員：

より踏み込んだ専門的な対応が期待できると思うので、是非お願いしたい。

近藤高齢・障害支援課長：

16 番についてだが、保土ヶ谷区で行っている精神障害者へのアウトリー

チ支援は、区役所のMSWや保健師に加えて、地域の精神科のドクターや訪問看護師からなる多職種支援チームを結成して、月2回程度訪問を行うという制度となっている。また、精神障害に特化した唯一の機関である生活支援センターが事務局の機能を担うというスキームが特徴となっている。生活支援センターは、健康福祉局からの指定管理委託料により運営されており、そこに費用を上乗せする予算措置を要望した。

健康福祉局からの回答は△（一部対応）となっており、障害施策のニーズがたくさんある中で、令和5年度については予算化が見送られたが、引き続き、区と情報共有を図りながら検討していくという回答となっている。

アウトリーチ支援については、区として進めていく中で、いくつか課題が見つまっている。前回8月の区づくり推進横浜市議員会議でもご説明したとおり、アウトリーチの支援期間は6か月を目安にしているところだが、6か月程度だと支援に結び付けることが難しいという課題が見えてきている。6か月が適当であるのか、次の支援機関につなぐタイミングをどのように見極めていくのか、また、そのあとのフォロー体制について、基幹相談支援センターや生活支援センター、区役所がどのような役割を担っていくかなど、連携のスキームなどについて、健康福祉局から十分な検証を求められている。実際に区としてもそういったところは課題であると認識しており、どのように事業評価し、検証していくかを現在検討している。健康福祉局としても、精神障害の方に対する支援、アウトリーチは必要であるという認識は共有しているので、引き続き一緒に考えていきたい。

北谷議員：

アウトリーチを保土ヶ谷区でモデル事業としてスタートさせたことは大変評価している。引き続き、よろしくお願ひしたい。

(2) ほどがや happy 子育て～妊娠期からの安心サポート～について

北谷議員：

「ほどがや happy 子育て」に関連して伺いたい。出産・子育て応援給付金について、区役所の窓口での申請は行っているのか、あるいは郵送等のみなのか。どういう申請の方法なのか教えてほしい。

大吉こども家庭支援課長：

令和4年4月に遡って適用となり、すでに生まれているご家庭には、子ども青少年局からご案内をするが、2月以降は区役所窓口で母子手帳を取りにいらした時に、今まで通り面談をしていただき、その際に申請の手続きがわかる資料をお渡しする。恐らく5月以降になるが、新たに生まれたご家庭に対しては、赤ちゃん訪問員の訪問時に、新生児の子育て応援金の手続きをご案内する予定だ。

北谷議員：

12月の補正予算案が出されたときに、本会議で質問をさせていただいたが、妊婦健診を受けたことがなくて急に出産するような、いわゆる「かけこみ出産」(飛び込み出産)については、保土ヶ谷区はどのくらいあるのか。

大吉子ども家庭支援課長：

ここ2年くらいで2～3件程度。

森議員：

予算が大きく120万円くらい減額となっている。中期計画でも子育て世帯をターゲットにした施策を進めていく中であるが、なぜ120万円減となっているのか教えてほしい。

大吉子ども家庭支援課長：

令和4年度に養育者に対する子育てアンケートを実施しており、4年度予算が膨らんでいるが、単年度の事業のため、事業終了に伴い100万円程度の減となっている。

(3) 元氣ながやっこ育成事業について

北谷議員：

「元氣ながやっこ育成事業」の青少年の活動に関連してだが、横浜市の調査で、15歳から39歳までの方で、「どこにも居場所がない」と感じている割合が2割という結果が報告されている。この2割という数字は、子ども青少年局では衝撃的な数字と言っていた。保土ヶ谷区で青少年を対象とした事業を行っているが、最前線にいる区役所から見て、参加者の数やバランスを比較してみて、この割合についてどのように受け止めているか。

金子地域振興課長：

「元氣ながやっこ育成事業」については、横浜国立大学と連携し、大学生が企画・実施するがやっこ教室や、区内唯一の水田での小学生向けの稲作体験、青少年指導員関係の事業などを実施しており、主に小学生を対象とした事業として実施している。

北谷議員：

青少年健全育成活動等となっており、その関連でどのように考えるかを伺いたかったが、こちらは小学生が対象ということで了解した。

(4) 区役所サービス向上・環境改善事業について

北谷議員：

毎回、窓口での対応について区民の方からお声をいただき要望している。令和5年度は、研修などをどのように考えているのか教えてほしい。

近総務課長：

毎年、窓口サービス向上に関する研修を行っているが、毎年同じ内容ではなく、工夫しながら実施している。具体的なテーマはまだ決まっていないが、令和5年度も引き続き、2度ほど職員向けの研修を行う予定だ。

北谷議員：

しっかりと対応するよう、お願いしたい。

斉藤議員：

デジタル庁が自治体窓口のデジタル化を進めており、書かない窓口ということで、是非これを視野に入れつつ進めてほしい。

また、ご高齢のご夫妻で、一方が先に亡くなられた際など、手続きが非常に大変である。ワンストップで対応できる「お悔やみ窓口」について、横浜市の令和5年度予算で計上されているので、是非、保土ヶ谷区が先駆的に取り組んでいただきたい。

議題2 その他

(1) 旧保土ヶ谷県税事務所跡地活用事業について

北谷議員：

住宅の方に生活相談室というものがあるが、これはどういったものか。
また、来られる相談員はどこから来ていただけるのか。

横浜市住宅供給公社：

横浜市の高齢者向け優良賃貸住宅の整備基準に定められている相談室で、居住者の方々が福祉サービス協会から来る相談員に、週1回～2回程度生活の相談ができるというもの。(週1回(月曜日 13:45～17:00 予定))

斉藤議員：

住宅一般賃貸は今何戸埋まっているか。また、賃貸情報の詳細を伺いたい。

横浜市住宅供給公社：

現在は4戸埋まっている。

賃貸情報については、ワンルーム、1Kの単身向けとなっており、家賃はおおよそ10万円少々となっている。

斉藤議員：

1階のカフェだが、ただの喫茶店ということではないと思うが、もう少し詳しく聞かせてほしい。

横浜市住宅供給公社：

カフェ自体は手前の区画で、奥に不動産機能を持った窓口がある。三春情報センターは様々な業態を持っている不動産屋で、介護、保育、鍼灸などの他にもカフェやケーキ屋なども行っている。一般的な仲介やリフォーム、また、暮らしの相談があればそういったことをご紹介できると伺っている。

斉藤議員：

暮らしの相談ができるというのは、どういった内容を相談できるのか。

横浜市住宅供給公社：

こちらの会社では、「住まいと暮らしすべてをサポートする」ということ

で、子育て・高齢者世代の住宅に対するお問い合わせに対しても、多方面においてお話しできると伺っている。

齊藤議員：

駐車場、駐輪場はそれぞれ何台か。また、細かいことで恐縮だが、駐輪場は平置きのみか。

横浜市住宅供給公社：

駐車場数が全9台分で、ケアプラザ用が5台、住宅用が1台、その他が3台。駐輪場数については全43台で、施設用が28台、住宅用が15台となっており、一部は2段式となっている。

齊藤議員：

保土ヶ谷区は山坂が多いので電動アシスト付き自転車が多く、またここにはケアプラザもあるのでお子さんを乗せる仕様のもので多くなる。そういったものをカバーして使える駐輪場となっているか。

横浜市住宅供給公社：

利用者のマナーによると思うが、持ち上げるのは重いので下段に電動アシスト付きを置くなどの運用はしていきたいと考えている。

齊藤議員：

これから立ち上げで大変になるかと思うが、引き続きよろしくお願いたい。

森議員：

齊藤議員の質問と関連するが、駐車場数が9台分ということで以前、東口に福祉車両を止めるところがないので、リプラ保土ヶ谷を活用して福祉車両の送り迎えができるようにするとご答弁いただいたが、それはこの内の1台ということでいいか。

横浜市住宅供給公社：

福祉車両の乗降場所については、基本的には施設向けに車椅子対応の駐車場が地域ケアプラザ用と高優賃用の2台分ある。現状では不特定多数の

人が常時出入りするの、施設運営上好ましくない、地域ケアプラザや高優賃の事業者にご相談していただく使用。また、一般の方も使う駐車場で常時停めておくことはできないが、乗降の手助けになるような形では整備をしている。ただし特定の大きな福祉車両については、状況によっては駐車できない可能性がある。

森議員：

9台分ということだが、施設で9台はかなり小さめの駐車場だと思う。区役所の下にも福祉車両が停まるスペースがあるが、たまに普通の車が停まっている。9台分だとそういったことも考えられるので、福祉車両の人たちが来た時に、しっかり停めるスペースを確保できるように、運用上何か検討していただくことを要望しておく。

もう一点、駐輪場の台数についてだが、多目的ホールのキャパシティはどれぐらいか。

檜崎福祉保健課長：

平米数だと約98㎡ほどある。

森議員：

そうすると最大で約200名ぐらいの人数が活用することになるかと思うが、そうなった時に43台分の駐輪場で足りるのかどうか。心配しているのは、駐輪場の空きがないがために、周りに止めてしまう可能性も否めない。その辺の対策も含めて、検討しておいていただきたい。

(2) 一般国道1号（保土ヶ谷橋工区）改築事業について

青木議員：

議員となって以降、この件に関して幾度となく意見交換をさせていただいたが、皆様の努力のおかげで様々な要望に応じながら、交差点開業に向けてご尽力いただいることに感謝申し上げる。

この今井川、保土ヶ谷橋の架け替えは、交通量も多く大変な工事現場ということで非常に時間もかかるが、継続的に今後も国の予算を確保できるのか今の状況をお聞きしたい。

樽川道路局建設課長：

国の補助事業として工事をしているが、平成 21 年度からの事業を開始以降、なかなか国の予算がつきにくい事業であった。しかし令和 2 年度から個別補助事業ということで、しっかりと予算がつくようになったので、引き続き工事を止めることなく進めていきたい。

青木議員：

もう一点だが、保土ヶ谷橋を架け替えることによる防災効果はどうか。

樽川道路局建設課長：

保土ヶ谷橋自体が、関東大震災の後に架けた非常に古い橋ということで、まず橋としての耐震性が当然上がるというのと、今井川の河川改修事業と併せて工事を進めており、河川の治水安全度も上がることから防災効果は非常に高いと考えている。

青木議員：

保土ヶ谷工区全体で見ると、この先何年かかるかわからないが、少しでも渋滞解消と災害対策という意味で、しっかりと頑張っていたいただければと思う。

森議員：

保土ヶ谷橋周辺の道路整備は区内の課題の一つなので、非常に嬉しく思うが、拡幅に伴い交番がなくなった。保土ヶ谷駅の方に場所を移すと伺っているが、現状での県との協議状況と設置時期について確認したい。また、岩間町と天王町周辺の方々から、機能が重複するので交通反則通告センターのところにある交番を、天王町寄りに移してほしいと要望があるが、そういった所の議論状況を伺いたい。

石川区政推進課長：

断言はされていないが、保土ヶ谷駅東口交番は令和 5 年度設計の令和 6 年度の新築工事を目指しているとは聞いている。それまでは、保土ヶ谷橋交番にいた勤務員の方を岩間町交番に配置して、今までどおりパトロール等を行っていくと聞いている。

森議員：

引き続き区としてもサポートしていただきたい。岩間町の方々も安心、安全のために交番は必要だと仰っているので、そういった地域要望も含めて実現できるように、引き続きの取組をお願いしたい。

齊藤議員：

意見のみにするが、交番が保土ヶ谷駅東口に移転すると私たちは認識している。移転については予算が議決されないと断言できないことも聞いている。ただ、市民、区民の方々に安心していただきたいという想いから、ここに移転すると私は表現している。そこを区のサイドとしても考えていただければと思う。交番が無くなっただけだと不安に思われる方がたくさんいるので、どのように表現すればいいかをお考えいただきたい。

(3) 令和5年2月10日（金）保土ヶ谷区岩井町で発生した土砂災害について

森議員：

ハザードマップを見ると警戒区域に入っているかいないかの境界に見えるところだが実際はどうなのか。

近総務課長：

警戒区域からギリギリ外れている。

森議員：

流出原因不明ということだが、写真を見ると土留めがあったように推測されるが、土留めがあったことには間違いはないか。

近総務課長：

土留めが崩れて、後ろの土砂が流出した。

森議員：

写真なので何とも言えないが、もともと上まで土が盛ってあったのではないかと推測できる。宅地造成の事業者との話しの中でどこまで調査が進んでいるのか。

近総務課長：

	<p>土が掘られた形跡はあるが、事業者は今回の工事とは関係がないとしている。</p> <p>森議員：</p> <p>こういう類は原因を追究するのは非常に難しいと思うが、集合住宅の所有者が土留め含めて復旧するのか、または事業者が復旧するのか。もしくは区の支援が多少なりとも必要になるのかなども含めて、しっかりと原因究明していただきたい。</p>
備 考	